

### 中国買い一巡 3000ドル割れも

銅

最近の上昇は中国要因に  
尽きる。景気刺激策として  
打ち出している公共投資関  
連の銅需要を先取りして、  
関連企業やSRB、地方政  
府などが買っている。

テクニカル的にみると、  
LME銅(3カ月先物)は  
05年に急騰する前の抵抗帯  
トン3650を上げてお  
り、チャート上には52  
50まで次の抵抗帯は存  
在しないことになる。従っ  
て中国買いの継続、米国の  
金融危機への対応策、景気  
刺激策などが機能して、さ  
らに需給が予測より引き締  
まるなどの全要素がそろえ  
ば、ここまでの上値も期待  
できる。

ただし、最近の中国買い  
は企業救済や在庫積み増し  
などの側面が強く、実需に  
結びついていないと思えな  
い。米国の過剰消費を背景  
とする深刻な需給調整が起  
こっていることを考える  
と、今回の上げ相場は長続  
きしない。中国の買いが一  
巡するなどして3600-  
3700を再び下回ると  
下げに拍車がかかり、30  
00を割り込む可能性が  
ある。



三菱商事フューチャ  
ーズ証券トレーディング  
部長  
田中 泰雄氏

銅

### 中だるみ後、7月上昇

NY 150-200



井戸商店社長  
井戸 和彦氏

中だるみの後、7月あた  
りから上昇に転じるだろ  
う。COMEX当限はポン  
ド150-200レンジ  
を想定している。COMEX  
銅は3月末に185付  
近まで上昇した。ただ、各  
国の景気刺激策の効力は初  
夏あたりにならないければ出  
てこないとみており、目先  
はこれ以上の大幅な上昇を  
期待しづらい。

米自動車大手の動向も懸  
念材料。200手前で反  
落基調に転じ、5月には1  
50付近へ押し戻され  
る。

6月までは150付近  
を下値にもちあい推移する  
が、7月過ぎからは実需を  
伴った相場反発を期待。2  
00を上回る水準まで切  
り上がり、9月まで200  
前後の水準を保つと見  
る。

為替相場(TTS)は一  
時的に円高が進行すること  
が考えられるが、日本経済  
が回復に手間取っているこ  
とへの失望感から円高基調  
に歯止めがかかることも考  
えられ、1ドル90-110  
円を仮定。銅建値はトン35  
万-50万円レンジか。

### 4000ドル下値に夏場一段高

銅

昨秋以降の急落で投機筋  
は売り疲れており、悪材料  
に対する慣れも過剰な売り  
を抑制しそうだ。LME現  
物は足元のトン4000が  
付近を下値に底堅く推移  
し、夏過ぎは5000があ  
たりまで上昇するのではな  
いか。

4月中は足元の堅調さを  
維持。LME銅在庫が減少  
基調で推移すれば4500  
あたりまで上値を試す。  
そこまで上がると、直近の  
相場上昇をけん引してきた  
中国勢が高値感から様子見  
姿勢に転じ、5-6月は4  
000前後まで押し戻さ  
れるかもしれない。

しかし、世界的に銅需要  
家の在庫調整が進むことで  
7月あたりからは再び騰勢  
に転じ、4500-500  
0レンジでモミ合う展開  
を想定。ただし、銅需要が  
前年並みまで回復すること  
はないと考えられるため、  
さらなる高値を狙うことは  
難しい。

為替(TTS)は1ドル  
100円前後を想定してお  
り、国内建値はトン40万-  
50万円レンジで推移すると  
みる。



マエダ総業社長  
前田 利正氏

銅

### 3000-4000ドル、景気対策が左右



橋本金属  
橋本 健一郎氏

LME現物で3000-  
4000を予測。注視材  
料は、①センチメントとフ  
アンダメンタルズ②足元の  
指標と本年度予測③米国と  
中国の景気対策。①は世界  
金融不安の最大要因への対  
策(バッドバンク構想)が  
出されるなどようやく改  
善。世界銅需給に関して  
も、IWCCやロイター社  
の予測では25万-50万ト  
の過剰予測が出ているが、世  
界総需要の約3%であるこ  
とから、過剰とまで言い難  
い②については、足元2月  
の自動車生産に関して国  
内合計で昨年同月比56%  
減、伸銅品生産も同58%  
減。09年度予測も日産ゴ  
ン氏の予測では世界新車販  
売台数5900万台(08暦  
年比14%減)と、大幅減少  
は否めない③については、  
具体策が出てきているため  
目先、心理面の改善から瞬  
間的に高値でモミ合う場面  
はあるとみられる。しかし  
対策に即効性はなく、米ド  
ルなどへの協調介入などカ  
ンフル剤がなければ指標悪  
化から、再び3000に  
近づく水準へじりじり下げ  
続けるものと予測する。

アルミ原料に関しては、  
実需激減が長期化し明るい  
材料は見つけにくい。年明  
けから中国向け輸出が急拡  
大したものの、足元はす  
でにブレイキが掛かり始めて  
おり、中国需要には多くを  
期待できない。日本のスク  
ラップ需要は4月から徐々  
に上向く気配が漂い始めて  
いる。

### 1300-1600ドル、下値は堅い

アルミ

当面のアルミ相場はトン  
1300-1600と予  
想する。製錬コストを踏ま  
えると下値は堅い。上値は  
重いものの、投機筋の買い  
が入れば上昇に転ずる可能  
性もある。ただ、世界的な  
需要環境を考慮すれば地合  
いは弱い。

アルミ原料に関しては、  
実需激減が長期化し明るい  
材料は見つけにくい。年明  
けから中国向け輸出が急拡  
大したものの、足元はす  
でにブレイキが掛かり始めて  
おり、中国需要には多くを  
期待できない。日本のスク  
ラップ需要は4月から徐々  
に上向く気配が漂い始めて  
いる。

ただ、合金メーカーはス  
ポットベースの買いを継続  
するため、大幅な需要増に  
は程遠い。引き合いが強ま  
るのは5月の連休明け以降  
にずれ込む可能性が高い。  
一方、景気後退の影響でス  
クラップ発生量も激減して  
おり、需給バランスは低位  
均衡で推移している。こう  
した中、原料相場は底を打  
ち、国内取引が伴わない  
中、次第に下値を切り上げ  
ている状況だ。



岡村金属社長  
岡村 晋吾氏